

四旬節第3主日

第一朗読 出エジプト 20・1-17
第二朗読 一コリント 1・22-25
福音朗読 ヨハネ 2・13-25

2024.3.3 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の第一朗読では、いわゆる「十戒」と言われている、その掟が朗読されました。いうならば、旧約聖書全体の中で最も大切な箇所が朗読されたと言って良いと思います。この十戒はエジプトの国で400年にわたって奴隷であったイスラエルの民を神様が導き出してくださり、そしてシナイ山の上で「神の民になります」と神様と救い出されて自由になった民が契約を結ぶ、そのときに神様から与えられた掟の中心部分ということになります。

掟というのは、神様を満足させるために人間の自由を拘束するという性質のものではありません。そうではなくて、もう二度とエジプトで味わったような、自分たちが家畜以下というか、軽んじられる、そのような思いはしたくない、そういう国ではない新しい社会を造る、その思いで、どうしたらいいのか、そういう民に対して、どのようにしたら良い国が、良い社会が造られるのかということの方向性を示すという、神の民に与えられた神様の恵みということになります。

今日朗読された、十の掟が羅列されているだけではなくてその説明も付いている、そういう所もあるわけですが、この第一朗読の中の——旧約聖書全体の中心であると言うことができますけども——その中の更に中心はどこかと言えば「父母を敬え」と「殺してはならない」（出エジプト 20・12-13）という、十の掟の五番目と六番目、つまり真ん中ということになります。

「父母を敬え」というのは、単に親孝行、お父さん、お母さんを大切にしようということだけではない——大切にされた方がいい場合もほとんどなんですけども。そうではなくて、父母から受け継いだものの一つは自分の命であります。「父母を敬え」は自分の命と他者の命——「殺してはならない」——を尊重する。それがすべての中心である。

そして、もう一つが、父母から受け継いだものというのは、それが自分の命も他者の命も軽んじられていたというエジプトでの経験をもう二度としないために与えられた、その父母の経験によって出会った神様と神様が与えてくださった方向性、それを敬う、ということになります。

そのために社会においてどうしたらいいのか。姦淫しない、盗まない、偽証しない、他者のものと自分のものの境界をはっきりさせるってということと、そして、自分たちがこの掟を与えてくださった神様以外を大切にしない、この掟以外を大切にしないということ絶えず思い起こす、神様との関係を中心に据えるというその前

半部分ということなんです。で、中心が、自分の命を大切にし、そして他者の命を大切に作る、損なわない。この二つになってくると言うことができます。

今日はイエス様が神殿の中で商売している人を追い出したっていうようなところが読まれましたけども、この神殿そのものは第一朗読で読まれた掟——なんびとも自分の掟の上に立つことができないんだ、この掟はすべての人の上にあり、すべての人が大切にしなければならないということ——を絶えず示している、そしてそこに神様との関係があるのだということ絶えず示している施設が神殿であったということになります。

本来、神殿の一番中心部分、一番奥にあつて最も貴い場所と言われている「^{せいじよ}至聖所」っていうところには、この掟が刻まれた石の板、モーセが神様からいただいたというふうに伝えられている石の板が安置されていたと言われてるんです——ソロモン王が造った最初の神殿には、です。イエス様の時代の神殿は、その当時の大きな、世界の観光名所の一つにもなっていたと言われてますけども、ヘロデ王が建設しました。その時代には、かつて一度国が滅んだときに契約の板は失われているということなので、至聖所は空っぽです。空っぽですけども、その精神としては一番中心、至聖所、一年に一度大祭司だけが入ることができるその空間には神様の掟が安置されているつもりというか、そういうことで造られている施設ということになってきます。

献げ物とかささげたりってことは^{ほか}他の場所ではできなかったんです。エルサレムの神殿だけ。そしてその神殿の一番中心には掟があるというのは、絶えずそれが自分たちの中心の精神なんだ、自分の命と他者の命を尊重する、敬うということから来る、神様が与えてくださった人生の、そして社会の方向性なんだ。誰も、王様であっても、そこに触れることはできないっていうことを示すのが神殿なわけです。王様が勝手に、「父母を敬え」を「王を敬え」に書き換えたり、「王の敵を殺せ」に変えたり、そういうことは出来ないんだ、ということを表わしているのが神殿での祭儀だったはずなんですけども、それを表わす色々なシステムが複雑化していくことで、一番中心、何が大切なのかっていうのが見失われて行っているっていうのがイエス様が言いたかったこと、示したかったことなのじゃないかなと思うんです。

神殿においていけにえを売ったりとか両替をしたりっていうのは、そのシステムにとってなくてはならない大切な要素だったわけです。国中から人々が集まって来て、そして献げ物をささげることができるのはエルサレムの神殿だけだとするならば、遠くから動物を連れて来ることは出来ないの、そこで動物を買うし、また、神様以外いかなる像も、神様の像も造ってはならないし、神様以外のいかなるものの下には立たない、というか、神様以外のいかなるものも自分たちの上に戴かないということを表わすために、当時の皇帝の肖像が入っているギリシャやローマの流通貨幣は献金できないわけです。だから、伝統的なイスラエルのお金に両替して献金する。だから、神殿システム全体を、イエス様がそういうものを否定するという

のが、今日の両替商とかいけにえを売ってる人を追い出すっていうそのお姿の中に込められている意味ということになります。

これは、そういう周辺的なことに、みんながそこに力を入れて、そしてその中心である神様が与えてくださった掟の方向性、なかんずく、「父母を敬え」と「殺してはならない」に示されている、一人ひとりの人間が尊重されなければならない、自分の命を神様からいただいたものとして大切にしなければならないということがないがしろにされているのではないか。それを大切にするために造った施設が、かえって一番中心点をぼやかせてしまっているって一つの警告なんだろうと思います。

これは、当時のイスラエルの人々にとっての話だけではない、ということです。キリスト信者は、今日の福音朗読にも暗示されているわけですが、イエス様の死と復活によって一人ひとりの心の中に直接神様の、イエス様の場所が与えられて、一人ひとりが神殿になったんだっていうのがこのヨハネの福音書が言いたいことです。一人ひとりの中にイエス様との繋がりが、その中心、心の中の一番の中心、建物の神殿でいうならば至聖所にあたる場所にイエス様がいらっしゃる、イエス様が与えてくださった掟があるはずなんだ、と。イエス様が与えてくださった掟は、ヨハネの福音書によれば、「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13・34)です。それをわたしたちは絶えず忘れないために、やっぱり今日のようなミサがあり、教会というシステムを与えられて、いろいろな神学が発展し、世界中でその信仰が正しく伝えられるようにいろいろなシステムが構築されて行っているけれども、それによって一番中心のイエス様の姿がぼやかしてしまっている、ということはわたしたちにも当てはまると言わなければならないわけです。

どんなに教会が発展し、神学が精密に構築され、典礼が構成されて行ったとしても、その中心にいらっしゃるの、出会った一人ひとりを愛したイエス様、そして「同じようにあなたたちもしてほしい」と弟子たちに向けて言われたイエス様の呼び掛けでなければならないわけです。

ときどき教会で一番人々がもめるのは、マリア様のどんな像を置くかとか、置かないか、あるいはこの場所に置くのかとか——この教会は幸いずっと昔から定まってるから大丈夫なのかもしれないけど——マリア様のどんな像をどんな場所に置くのかで人々がほんとに憎み合うようなことも起こるわけです。マリア様、泣いてますよね。しかしそれは、わたしたちも^{ひとつごと}他人事ではない。どんなことでも、一番大切なことを思い出そうとするために周辺のことがあるのに、そのことが中心点をぼやかせてしまって、わたしたちをイエス様から遠ざける、そんなことがありはしないかなあ、というわけです。

わたしたちは、今日、一人ひとりの中の神殿にイエス様がいらっしゃるって、そしてそのご自分とご自分の呼び掛けをぼやかせるようないろいろなものを取りあえず運び出せ、清めて、そしてもう一度自分と出会い直すように呼び掛けていらっしゃる

る。その呼び掛けに耳を傾ける、従う、思いを新たにする、その必要がある、そんな福音なのではないかなあとと思います。

今日もわたしたちが共に集まっておささげしているミサが、一人ひとりを、また共同体をイエス様ご自身から遠ざけるものになるのではなく、むしろイエス様とその呼び掛け、「互いに愛し合いなさい」という呼び掛け——そのためだったらいくらでもイエス様は助けくださり、そしてそれを生きようとするときにわたしたちの中に力があるのだということを思い起こす、主への信頼を新たにするものとなりますように。一番大切なことを絶えず見据える、その思いを新たにしながら、このごミサを通して恵みを頂きたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>